農作業 テクニカルダイアリー

Agricultural-work technical diary

落花生

営農部　営農振興課
営農指導員　石井 枝里奈

栽培のポイント（表❶参照）

●畑の準備～播種

落花生は連作障害が出やすい作物なので、他の作物と輪作してください。元肥には落花生専用（5-15-20）を10アール当たり60キロ、苦土石灰を10アール当たり60～80キロ施用します。土壌診断を行い、石灰が不足していた場合は、土壌PHが6・0～6・5になるよう矯正してください。準備ができたら、ベッドを作って2条用マルチ（孔径8センチ）を敷き、畝間130センチ、株間30センチで1～2粒ずつ播種します。鳥害対策として、播種前にキヒゲンR－2フロアブルで種子消毒を行いましょう。

●病害虫対策

表❷を参考にして、薬剤防除を行ってください。白絹病や茎腐病の被害株は早めに抜き取りましょう。

●マルチ除去

収量・品質が低下しないよう、開花期（圃場の50％の株に1輪でも花が咲き始めるころ）の7～10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水が浸透するようにしましょう。

●中耕・培土（石灰施用）

開花初期から1～2回、中耕・培土を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草も兼ねて7月下旬までに行いましょう。また、石灰が不足していると空莢や未熟莢が増加するため、元肥に石灰を施さなかった場合は、培土時に苦土石灰を10アール当たり40～60キロ施用してください。

●灌水

7月下旬～8月中旬（結莢～莢肥大期）に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは、1回当たり30～40ミリ灌水しましょう。

●試し掘り

収穫が遅れると、落ち莢が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして、収穫適期を逃さないようにしましょう。

●乾燥

掘り取り後は5～7日間、地干ししましょう。その後、風通しの良い場所で野積みし、ブルーシートや稲わらなどで覆います。また、平積みにトンネルを掛ける方法もあります。十分に乾燥させた後、脱穀・調整してください。

「Qなっつ」について

昨年デビューした「Qなっつ」は、ショ糖含有率が高くて甘みが強く、莢が白くきれいな新品種です。草型は立性、成熟期はナカテユタカとほぼ同じ中生品種です。ナカテユタカよりも徒長しやすいので、1粒播きが基本です。また、掘り遅れると落ち莢が増えるので、適期に収穫しましょう。

表❶　落花生の栽培暦

	5月			6月			7月			8月			9月			10月			収穫適期目安
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
千葉半立	○	……	○	★	★	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	□	□	□	開花期後95日
ナカテユタカ	○	……	○	★	★	―	―	―	―	―	―	―	□	□	□				開花期後80日
Qなっつ		○	……	○	★	★	―	―	―	―	―	―	―	―	―	□	□	□	開花期後80日

○…播種　★…開花期　□…収穫

表❷　落花生に登録のある薬剤

薬剤名	対象病害虫	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数
フォース粒剤	コガネムシ類幼虫	播種時	9kg/10アール	1回以内
トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	収穫60日前まで	9kg/10アール	2回以内
トップジンM水和剤	褐斑病、茎腐病	収穫7日前まで	1500倍	4回以内
フロンサイド粉剤	白絹病	収穫45日前まで	20kg/10アール	1回以内

最新情報をお届けします
「営農情報メール」配信中！　登録無料!!
作柄情報　病害虫対策　青果物概況　イベント案内　など
◆ご登録は、右記のQRコードまたはJA山武郡市のホームページから！
（スマートフォンもしくはパソコンのメールアドレスをご登録ください。）
◎JA山武郡市の組合員なら、どなたでも登録できます!!

スイカ

芝山経済センター
営農指導員　伊藤 統之

病害虫防除のポイント

今後の管理で注意が必要なスイカの病害虫を紹介します。薬剤は表❸を参考にして、生育時期に合わせて使い分けてください。

●菌核病・つる枯病

菌核病は、気温20℃前後で湿度が高い状態が続くと、ゴマ粒のような黒い菌核が発生します。つる枯病（写真❶）は、地際部より発生し、灰褐色の病斑部からヤニを出すのが特徴です。いずれもスイカの肥大を進める上で、ムラシ（換気を控えて、温度を確保）を行う時期に発生しやすい病気です。発生してからの防除は効果がないので、発病前に防除しましょう。

●炭そ病・褐色腐敗病

いずれも、高温・多湿の条件下で多く発生する病害です。炭そ病は、葉に黒色斑点状の病斑を形成し、果実表面には、ひし形の病斑が発生します。褐色腐敗病（写真❷）は、短時間に大量の降雨があり、圃場に水がたまった場合は特に注意しましょう。感染した葉は、お湯をかけたように溶けるのが特徴です。炭そ病と同様に、収穫時に被害が見られなくても、出荷後に発病するケースも多いので、早めの防除が重要です。

●害虫防除

近年は、ハダニ、アブラムシ類に加え、アザミウマ類（写真❸）が多く発生します。次作にも影響を及ぼすため、防除を徹底しましょう。

写真❷　褐色腐敗病

写真❸　アザミウマ被害
（果実の白ぶくれが特徴）

写真❶　つる枯病

2月の分析経過について

残留農薬分析点数	多成分一斉分析	合計5点
		春キュウリ……1点
		レタス（ちばエコ）……1点
		ホウレンソウ……1点
		ニラ……1点（インショップ）
		レタス…1点（インショップ）

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 …… 合計48点

表❸　スイカの防除暦

生育時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
つる引後	うどんこ病 つる枯病 菌核病	ベルクートフロアブル	1000倍	前日まで	4回以内
	アブラムシ類	ウララDF	2000倍	前日まで	2回以内
着果後	菌核病 つる枯病	スミレックス水和剤	1000倍	7日前まで	5回以内
	うどんこ病	ショウチノスケフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内
	アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	3日前まで	3回以内
玉直し後	うどんこ病 つる枯病 炭そ病	シグナムWDG	1500倍	前日まで	3回以内
	ハダニ類	スターマイトフロアブル	2000倍	前日まで	1回以内
肥大期	褐色腐敗病	レーバスフロアブル	2000倍	前日まで	2回以内